

## 審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 3 回 松阪市立幼稚園・保育園あり方検討部会
2. 開 催 日 時	平成 28 年 10 月 20 日（木）午後 6 時 00 分から午後 8 時 15 分
3. 開 催 場 所	産業振興センター 2 階人材育成講座室
4. 出席者氏名	<p><b>委員</b> ◎須永 進、正木励弥、中津 麗、高谷育子、中村昭子、高橋恵司、近藤慎一郎、垣本 大、松名瀬弘己、菌部 功（◎部会長）</p> <p><b>事務局</b> 山本嘉教育政策統括マネージャー、川口雅生教育施設担当監、山口照子三雲北幼稚園園長、長野功子ども子育て支援推進マネージャー、沼田雅彦こども未来課長、中川三千子保育指導担当監、郡山葉子春日保育園園長、松林正人教育総務課総務政策担当主幹、安東美代子総務政策係長、添田一美学校支援課教育課程係員、荒木章次保育園担当監、竹川尚子保育指導主幹、池田元彦保育園係長</p>
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	31 人
7. 担 当	<p>松阪市殿町 1340 番地 1 松阪市福祉事務所こども未来課 担当者： 荒木 電 話： 0598-53-4212 F A X： 0598-26-9113 e-mail： kod.div@city.matsusaka.mie.jp</p>

### 事項

#### 1. 報告事項

- (1) 第 2 回松阪市立幼稚園・保育園あり方検討部会の内容（8 月 9 日）
- (2) これからの幼稚園・保育園を考えるシンポジウムについて（9 月 10 日）
- (3) 窓口業務の一本化について（現状報告）

#### 2. 協議事項

- (1) 松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針（素案）
  - I 松阪市の現状と課題
  - II 就学前教育・保育に関する基本的な考え方
  - III 施設整備の方向性
- (2) 今後の進め方について

### 議事録

別紙「第 3 回 松阪市立幼稚園・保育園あり方検討部会 議事録」のとおり

### 第3回 松阪市立幼稚園・保育園あり方検討部会 議事録

日 時：平成28年10月20日（木）18:00～20:15

場 所：産業振興センター2階人材育成室

出席委員：須永 進（部会長）、正木励弥、中津 麗、高谷育子、中村昭子、高橋恵司、  
近藤慎一郎、垣本 大、松名瀬弘己、菌部 功

事務局：山本嘉教育政策統括マネージャー、川口雅生教育施設担当監、山口照子三雲北幼稚園園長、長野功子ども子育て支援推進マネージャー、沼田雅彦こども未来課長、中川三千子保育指導担当監、郡山葉子春日保育園園長、松林正人教育総務課総務政策担当主幹、安東美代子総務政策係長、添田一美学校支援課教育課程係員、荒木章次保育園担当監、竹川尚子保育指導主幹、池田元彦保育園係長

配布資料：・第3回松阪市立幼稚園・保育園あり方検討部会事項書  
・第2回松阪市立幼稚園・保育園あり方検討部会（議事録）  
・これからの幼稚園・保育園を考えるシンポジウム開催報告  
・これからの幼稚園・保育園を考えるシンポジウムでの意見  
・松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針（素案）  
・松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針（素案）確認事項  
・今後の予定

[議事録]

<開会>

部会長

ただ今より、第3回松阪市立幼稚園・保育園あり方検討部会を開催させていただきます。

お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

8月9日に開催しました前回の第2回あり方検討部会では、幼稚園・保育園の将来イメージについて議論いたしました。幼稚園・保育園の行政窓口一本化についても意見が出されました。また、9月10日には、これからの幼稚園・保育園を考えるシンポジウムを開催し、いろいろご意見をいただきました。本日は、松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針（素案）を基に、議論していきたいと思っております。12月には、この素案から中間案を作成していく予定であります。皆さんの建設的なご意見を伺い、中間案へ繋げていきたいと考えます。

それでは、報告事項(1)第2回松阪市立幼稚園・保育園のあり方検討部会の内容について

事務局より説明をお願いします。

事務局より、第2回松阪市立幼稚園・保育園のあり方検討部会（8月9日）の内容について、資料「第2回松阪市立幼稚園・保育園あり方検討部会（議事録）」をもとに報告。

#### 部会長

前回のあり方検討部会について、事務局から説明がありましたが、何かこの件につきまして委員の皆さんから、質問や意見等はありませんか。

（委員より意見、質問等はなし）

それでは、報告事項(2) これからの幼稚園・保育園を考えるシンポジウムについて事務局より説明をお願いします。

事務局より、これからの幼稚園・保育園を考えるシンポジウムについて（9月10日）の内容について、資料「これからの幼稚園・保育園を考えるシンポジウム開催報告」、「これからの幼稚園・保育園を考えるシンポジウムでの意見」をもとに報告。

#### 部会長

事務局から説明がありましたが、特にディスカッションのところでいただきました貴重なご意見を参考に、この会議で活かしていくことが我々の責務と考えています。それでは報告事項(3) 窓口業務の一本化について事務局より説明をお願いします。

事務局より、窓口業務の一本化の内容について現状を報告。

#### 部会長

窓口業務の一本化は非常に重要なことですので、今後もしっかりと見ていきたいと思えます。それでは、以上の報告事項につきまして、委員の方で質問等はありませんか。

（委員より意見、質問等はなし）

それでは協議事項に入りますが、本日はこの部分で、ご意見を伺いたいところであり、松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針（素案）について一つ一つ確認を進めていきたいと思えます。その中のまずは、第I章「松阪市の現状と課題」について事務局より説明をお願いします。

事務局より、「松阪市の現状と課題」の内容について、資料「松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針（素案）」をもとに説明。

## 部会長

まずは、目次ですが、全体構成としてはフォローされていると思いますがよろしいですか。次に、松阪市の就学前児童数の状況については、推移と推計の児童数が示されており、確実に児童数は減少してきており、それが幼稚園・保育園の児童数に影響している点や公立・私立の状況が表されていますがこれでよろしいですか。

また、幼稚園・保育園の充足率等を含めた表や待機児童数として国基準待機児童数と実待機児童数が示されています。施設の配置図がありますが、子どもたちに無理のない距離の中に幼稚園・保育園があるかどうか、人口動態に合わせた考え方が求められてきます。

また、職員の配置状況についても示されており、シンポジウムでも意見がありましたが、非常勤職員の問題など今後考えていかなければならないところでもあります。現状を知るうえでこの資料でよろしいでしょうか。

## 委員

就学前児童数の推移で、減少傾向にある中で私立保育園だけが増加傾向ですが、理由はありますか。

## 事務局

私立保育園の園児数は平成 27 年度で 2,280 人ですが、現在、三雲地域で定員 180 名の私立保育園を建設しています。尚且つ、私立保育園の状況を確認する中で児童数の増を見込み、今後の推計を約 3,000 人といたしました。

## 委員

私立保育園が施設の増加の意向を持っているということですか。

## 事務局

そのような状況の中で児童数が推移していくと考えます。

## 部会長

子どもが減少していく中で私立保育園が受け入れを大きくすることで、待機児童も含めて生活できる場を増やしていくという流れであると思います。この章では、現状認識をしていただければよいと思います。次のところでは、幼稚園・保育園の園児数、施設、配置、職員状況が課題として取り上げられていますが、第 I 章はこれでよろしいですか。

(委員より異議なし)

第 I 章「松阪市の現状と課題」については、現状を知るという意味で、このデータを参考にしていくということにいたします。

それでは、次に第 II 章「就学前教育・保育に関する基本的な考え方」ですが、ここでは、第 I 章の現状を踏まえながら、これからの松阪市の方向性につながっていくところですので

議論をしていきたいと思ひます。事務局より説明をお願いします。

事務局より、「就学前教育・保育に関する基本的な考え方」の内容について、資料「松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針（素案）」をもとに説明。

#### 部会長

ここでは、これから市の方向性が書かれており、積極的に取り組まれている内容と思ひます。まず市のめざしていくスローガンとして「笑顔が輝く幼児教育・保育をめざして」とありますが、どうでしょうか。

#### 委員

このテーマのところで、「幼稚園は幼稚園として、保育園は保育園としての特性を生かし、幼稚園・保育園が共存し」と書かれていることは、多様化している保護者や地域の思いを受け止めて示されていることは、ありがたいと思ひます。

#### 部会長

スローガンは、「子どもの笑顔が輝く・・・」とした方がよりわかりやすいと思ひます。これからは、「幼稚園は幼稚園として、保育園は保育園として」といったことも含めて、両方のいいところを取って子どもたちの生活の場として考えていく方向性も必要なのではと個人的には思ひます。それでは、就学前教育・保育の質の向上のところを見ていただき、お気づきの点やご意見をお聞かせください。

#### 委員

支援を要する子どもへの対応については、非常に重要なところであると思ひますが、先日、松阪市子ども発達総合支援センターそだちの丘が開設され、市健康センターも現在建設中です。これらの施設も連携し関わっていくことを、この基本方針の中で含めてはどうでしょうか。

#### 部会長

人材だけではなく、施設面も含めて、市の方向性として記載してはどうかとのご意見でした。

#### 委員

同じ意見ですが、保育園、健康推進課、育ちサポート室、家庭児童支援室等が一体となって、保護者を支援していく体制ができればいいと思ひます。

#### 委員

正規職員の確保については、喫緊の課題としても挙げられておりますが、確保していくた

めには、処遇の改善も必要であると思います。一度職を離れてしまった保育士が復帰してこないことにはどのような問題があるのか、単に賃金をあげればよいとの問題でもなく、働くやりがいという部分も大きいと思いますので、こういったところも取り上げてはどうでしょうか。

#### 部会長

正規職員の方も必ずしも処遇がいいわけではありませんから、本当に働き甲斐のある職場であることは大切でありますし、確保するだけでなく、より具体的に取り上げるほうがよいと私も思います。そして、非常勤職員の方もたくさん働いていただいております、その方々に支えられているわけですので、働き甲斐のある職場にしていくためにも、処遇改善は早急にやらなければいけないと思います。

保育園・幼稚園の評価についてですが、自分の保育を振り返ってみることは大切で、自己点検をして取り組んでいくことは大切ですが、付け加えるとするなら、評価だけで終わるのではなく、そこから生まれてくる課題にどう対応するかが大切であり、それには学ぶ場である研修とのタイアップに関するところを加えてほしいと思います。研修制度もしっかり見直して、それが積み重なっていく研修会が有効であると思います。評価の結果を踏まえて、次の研修に結び付けていく体制づくりを試してみてもいいと思います。

#### 委員

評価を次の研修に結び付けていくということはすごく大事だと思います。幼稚園の園評価についての部分ですが、園評価には自己評価の部分も含まれています。また、保育園でも園経営について方針の策定もされていると思いますので、自己評価、園評価の部分は共通の記載でよいと思います。

#### 部会長

共通している部分はわかりやすく記載したほうがよいと思います。

#### 委員

第Ⅰ章に幼稚園職員の課題として、非常勤職員園長のことが挙げられていますが、第Ⅱ章の基本的な考え方のところには、正規職員の確保だけが記載されています。課題と取り組みの整合を図るため、園長の育成や確保に関するところの記載の検討が必要ではないでしょうか。

#### 部会長

現状を踏まえてこれからの課題に取り組むわけですから、今、松阪市が抱えている問題点であるので、この部分は組み入れていただきたいと思います。

#### 委員

職員の育成に関しては、幼稚園・保育園職員がコミュニケーションを図りながら、保育技術を学ぶ研修会を充実していくことが大切だと思います。津市では、年に5～6回、幼稚園・保育園職員が一緒になった研修を行っており、前は奈良県の認定こども園の先生を招き、話を伺ったそうです。幼稚園・保育園職員が同じ場で研修を行うことで、互いの保育の理解を進めてきて10年経過し、幼保のつながりが強くなったということからも、時間をかけて幼保と一緒に学んでいくことが大切なのではないかと思います。

#### 部会長

それでは、幼稚園・保育園施設の適正配置に関するところへ移りますが、委員の方でご意見等はありませんか。

(委員より意見、質問等はなし)

公立幼稚園では、3歳児保育をやっていない園では人数の減少傾向がみられ、保育園は、待機児童も含め希望者が多い状況ということを見ると、適正な施設配置が必要ということですが、表現については、問題はありませんか。

我々が頭に入れておかなければならないことは、長いスパンで考えた時、推計ですが子どもの数は減っていくということです。このことを見据えて、幼稚園・保育園のあり方、定員のあり方を考えていかなければならないと思います。

それでは、幼稚園のクラス編成等の見直しのところはどうでしょうか。3歳児クラスについては、実際に追加され、預かり保育については、これから検討していくということが市の方針として書かれてありますが、いかがでしょうか。

#### 委員

3歳児クラス追加の要望はあるかと思いますが、私立幼稚園・保育園との整合を図りながら検討していくといったところは、よいと思います。

#### 部会長

3歳児クラスの要望については、シンポジウムでもご意見があったところであり、徐々にですが公立幼稚園での受け入れ枠が広がってきましたが、子どもの環境面での安全等に配慮しながら、クラスの追加は行われるべきであると思います。

預かり保育の件はどうでしょうか。保育園等との整合を図り検討していくということが示されています。

#### 委員

整合性を図るという表現がわかりにくい部分であり、言い換えれば、それぞれの役割、あり方といった表現がより分かりやすいと思います。

#### 部会長

分かりやすい文章を検討していくべきと思います。次に、公立と私立の連携のところですが、連携体制の充実、私立認可保育園の新築・改築について、松阪市の方向性が示されています。公立・私立の長所を活かしながら研修等により質の高い教育・保育を行っていくことや補助金等も含めて充実を図っていくことが書かれています。そして、私立認可保育園の新築・改築については、それを後押ししていくことが書かれています。公立と私立の連携のところはいかがでしょうか。

#### 委員

お金のことだけではなく、今後、幼稚園・保育園の窓口が一本となる中で、災害や防犯に関するところなどで、私立への働きかけについても記載してはどうでしょうか。

#### 部会長

お金の部分だけではなく、危機管理に対することについても連携を取っていくことが大切だと思います。

市組織の見直しについては、これまでも説明のあったところですが、内容的にこれでいいですか。利用者側にとっては、こども局を含め行政が一本化されることで便利になることが一番の目的であるので、ぜひこれは進めていっていただきたい。ここの表現はこれでよろしいでしょうか。

(委員より意見、質問等はなし)

第Ⅱ章に関しては、意見も出されたと思います。

それでは、第Ⅲ章「施設整備の方向性」について、事務局より説明をお願いします。

事務局より、「施設整備の方向性」の内容について、資料「松阪市立幼稚園・保育園あり方基本方針（素案）」をもとに説明。

#### 部会長

公立幼稚園、公立保育園、公立認定こども園が挙げられており、地域管内ごとに検討をしていく必要があることが書かれています。ここについて、質問や意見等はありませんか。

#### 委員

施設の方向性が、具体的に園名も表されてきていますが、これだけの資料ではイメージが湧きづらいところです。この中で再編・統廃合という言葉が繰り返し出ており、公立幼稚園・保育園は土地が狭小で駐車場が足りないことは大きな課題となっていますが、再編・統廃合が、今の土地でできるのかどうか大きな問題であり、狭小な土地では移転をしなければなりません。平成19年に移転した西保育園は約4,000㎡の土地に建っていますが、幼稚園・保育園の土地について、この素案には載っていません。また、山間部等の急傾斜地や津波被害



が想定される沿岸部なども含めて、幼稚園・保育園がこういった立地状況に建っているかを踏まえた中で検討をしていくべきと思います。

#### 委員

ある公立幼稚園の運動会の時に、近くの私立認可保育園の駐車場を貸していただき、保護者は大変喜んでいました。

この幼稚園は駐車場がなく、朝の送迎時にはドライブスルー状態で、雨天時は大変で、また危険なことから、幼稚園・保育園また公立・私立で、お互い譲り合いの関係が築けることはいいことなので、このような関係で今後のあり方検討を進めていただきたいと思います。

#### 部会長

再編・統廃合については、幼稚園・保育園の立地条件も含めて考えるべきというご意見と、幼稚園・保育園また公立・私立がお互いに補い協力し合っていくことも一つの方向性だろうというご意見でした。その通りだと思います。園を見学させてもらいましたが、建物の古い所や駐車場のない所もあったことからいうと、再編・統廃合していく視点の中に入れていく必要があると思います。また、公立・私立との関係も近ければ、協力していくことを進めていく必要もあると思います。

事務局より、松阪市土砂災害危険区域図、松阪市津波ハザードマップに基づく土石流危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、津波浸水想定区域にある幼稚園・保育園を報告。

#### 部会長

幼稚園・保育園の立地条件を含めて考えながら、検討していくことは必要だと思います。そのことを文章として入れていくことはできますか。

#### 事務局

建築年度や面積、危険想定箇所といった立地に関することについては、第Ⅰ章「幼稚園・保育園の現状と課題」の幼稚園・保育園の配置、施設のところで、追記することを検討します。

#### 部会長

ぜひお願いします。ただ再編・統廃合するだけではなく、立地条件も考える必要があるということです。他にはどうですか。

#### 委員

施設整備に関して、認定こども園も含め検討ということが安易に使われているような気がします。認定こども園の形態や今後のスケジュールについても、具体的には示されていません。例えば、飯南・飯高地域では、保育園が認定こども園も含め検討とされており、保育園

型認定こども園の形態かと想像できますが、それ以外のところでは、どのような形態で考えていくのかと思います。第Ⅱ章のテーマのところ、「幼稚園は幼稚園として、保育園は保育園としての特性を生かし、幼稚園・保育園が共存し」と明記されている一方で、園をくっつけてしまうような拙速な印象も受けてしまいます。例えば、本庁管内の射和・茅広江・大石地区については、大江・多気と中学校区が異なっており、ここを1つのエリアで考えることはどうかと思います。射和幼稚園の園児数は、現在56人と聞いています。射和幼稚園は施設が大きくキャパはありますので、一概に充足率だけでは判断できないと思いますし、1園あたりの適正規模が75人から100人であることを考えると、強ち、大きく離れていることはないのかと思います。実際に通っている子どもたちは、射和地域以外では漕代、朝見、徳和、第五小校区からで、北方面から来ています。なので、茅広江・大石地区と射和地区は隣接していますが、一つのエリアとして考えていくのはどうなのかと思います。中長期的には、射和幼稚園、つばな保育園、大河内保育園について、認定こども園も含め検討となっていますが、これらの地域の真ん中には峠があり、なかなか同じ地域としては考えにくいという印象を持ちます。また、嬉野管内のひかり保育園と豊田幼稚園については、どちらも児童数は増加傾向であり、ある程度の充足率があるので、ひかり保育園の老朽化に対しては建築をするなどして、共存していく形もあるのではないかと思います。三雲管内については、合築された幼稚園・保育園で連携しながら教育・保育を行っている現状の中、第Ⅱ章のテーマからいうと、そのまま共存して連携していけばいいのではないかと思います。

#### 部会長

幼稚園・保育園の状況が単純に認定こども園に結びつかないのではないかと、また、テーマになっています「それぞれが共存して」ということから、内容があわないのではないかとのご意見でした。このことについてはどうでしょうか。

#### 委員

三雲管内は中長期的に、方向性は認定こども園も含め検討となっていますが、人数の少ない園が認定こども園になることは比較的抵抗はないのではないかと思います。園児数、職員数が多い大きな園から認定こども園を考えていくとなると、職員がもっと研修を積んで、やれるという確証を持ってからでないといけないのではないかと思います。嬉野管内のひかり保育園と豊田幼稚園についても、児童数が増加傾向のところがあえて認定こども園を考えていくよりも、小さな園から検討していくべきではないかと思います。

射和幼稚園に朝見や漕代の子どもが通っていると聞きましたが、東部中学校管内は、地域住民自体が減少傾向にあり、管内の私立保育園は一杯で、保育園を求めて市街地へいく保護者も多く、こういう地域に、認定こども園を考えていった方がいいのかもしれないと思いました。

#### 部会長

第Ⅲ章の表に出ている以上に、工夫をしてみたらどうかといったご意見だったと思います。

スケジュールにあります。期間が、短期・中期・長期といった中で検討をしていくということですが、園の位置、状況、規模、地域のつながりなどを考えながら検討していく必要があるのではないかと。この表を見直していく必要が出てくるかもしれませんし、子どもたちが利用しやすいような状況の認定こども園にするならば、先ほどのご発言あったことも十分に考えるべきであろうと思います。

期間が短期というところは5年以下ということですので、検討をすぐ進めていかなければならない状況なのではないでしょうか。

#### 事務局

基本的には、幼稚園は幼稚園として、保育園は保育園としてという考え方ですが、短期というところでは飯南・飯高管内ですが、ここについては、幼稚園機能がない中に、幼稚園と保育園を併せ持った機能を早急に作ることによって、保護者の選択肢も増えることになりまので、保育所型の認定こども園を考えていきたいと思っています。先ほどのご意見にありましたが、決して安易に認定こども園をつくるのではなく、これから検討していく中で必要に応じて、認定こども園という手法も含めて検討をしていくと、方針の中では整理をしています。大河内・大石・射和・茅広江方面については、学校区や地理的状况で分かれている部分はありますが、児童数が減少していく中で、射和のこどもが茅広江に通っているといった現状もあり、ここでは中長期的なスパンで検討をしていかなければならないところと整理をしています。

#### 部会長

資料の内閣府のホームページによると、こども園は地域の子どもに教育・保育を提供するとともに、地域における子育て支援を行う機能を持つとされていることから、子どもたちにとってどうなのかということを考えながら、検討を進めていっていただきたいと思っています。こういった文章が基本方針の中に入れてくれるといいと思います。

#### 委員

認定こども園に関しては、皆さん不安に感じて見えるのかと思います。この基本方針はあくまで方針であって一例であり、決定したわけではありませんので、これを一つのベースとして、この方針が出ましたら、地域へ出向き保護者や地域の方としっかりと懇談をさせていただき、地域のニーズを聞かせていただいた上で、方向性を決めていきたいと考えます。

#### 部会長

全体を通してご発言があればどうぞ。

#### 委員

現在、伊勢寺地域から花岡保育園に子どもが通っています。以前にも阿坂地域から若草保育園や西保育園に通う子どもがいました。子どもの最善の利益を考えると、地

元の幼稚園が認定こども園であったら、子どもは地域で育っていけるのではないかと思います。子どものことを考えると、もっと広く認定こども園を視野に入れてもいいのではないかと感じます。

#### 部会長

一つの選択肢になりつつあるということだと思います。まだまだ定着していくまで時間はかかりますが、少しずつですが認定こども園化されているところもありますので、そういった情報を得ながら、子どもたちが安心して生活できる空間を保障していくのが、最善の利益に叶うわけですから、我々大人がしっかり考えていく必要があります。

それでは、あり方基本方針（素案）については、それぞれご意見をいただきましたので、それを参考として、あり方基本方針（中間案）を作成していく作業があります。12月の会議ではまた、皆さんで議論していただくことになると思います。来年3月には、基本方針としてお示しすることが重要な役割となっています。このことも踏まえて、ご意見がありましたら事務局へ伝えてください。

それでは協議事項(2)今後の進め方について、事務局より説明をお願いします。

事務局より、今後の進め方の内容について、資料「今後の予定」をもとに説明。

#### 部会長

このようなスケジュールで進めていきたいと思います。方向性も含めて何かありますか。ご意見のある方は事務局へお話をしていただき、それを中間案に活かしていきたいと思えます。

それでは長時間に渡りましたが、これで第3回 松阪市立幼稚園・保育園あり方検討部会を終了させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

#### <閉会>